

肩の痛み解決のお役に

北斗病院専門センターを開設

帯広市の北斗病院(井出渉院長)は、「肩関節センター」を開設した。木村明彦センター長(62)は、「農業が主要産業の十勝は、肩の痛みで悩んでいる方も多いと思う。正確な診断・手術・リハビリに関する情報を提供し、最も適切な治療を進めていきたい」と話す。

(松岡秀宜)



肩関節は「二番動かす機会が多い関節」(木村センター長)の一つ。筋肉(腱板IIけんばん)や軟骨(関節唇)、関節を包む膜(関節包)などが腕を支えるが、動かせる範囲が広い分、不安定な面もあり、ちょっとした場面でも痛みを感じることも多い。

特に40〜50代となると、いわゆる四十肩・五十肩(肩関節周囲炎による凍結肩など)と、年齢から来る痛みと自己判断し、動かしにくさや痛みに耐えながらも過ごすケースも多々ある。

しかし、腱板が裂けた・切れた状態の腱板断裂、腱

「十勝の皆さまのお役に立てるよう、適切な治療を進めていきたい」と話す木村センター長

板に石灰が付着して炎症が起きる石灰沈着性腱板炎、軟骨がすり減って骨同士がこすれる状態となる変形性肩関節症などに伴った「痛みもある」と、木村センター長は説明する。同センターでは、正確な

病態を把握するため、磁気共鳴画像(MRI)やコンピュータ断層撮影(CT)、エコー(超音波)検査などを積極的に活用。投薬、注射、安静、作業療法士らによる専門的なりハビリテーションも組み合わせた保存療法、手術など、患者の状態やライフスタイル、年齢に合わせた治療を提供する考えだ。

木村センター長は札幌や道東で勤務経験があり、帯広市内のクリニックでは、出張医として肩関節疾患の診療に携わってきた。高度な治療法の一つ「リバースタイプ(反転型)人工肩関節置換術」についても、積極的に取り入れている。同病院では今回、着任に合わせてセンターを開設した。

木村センター長は、「1次産業が主要となる十勝で

は、日常生活で肩を痛める人が多いが、肩関節専門医が少ない」と指摘。「日常生活動作に支障をきたしていたり、可動域に制限があったりなど、肩の痛みや不安がある方はご相談を」と話す。

診療時間は、毎週火曜日午後(午後2時〜同5時)と、水曜日午前(午前9時〜正午)。